

第2回石川県社会福祉会館建替工事基本構想策定検討委員会 議事概要

1 日 時 令和6年12月23日(月) 13時30分から15時30分

2 場 所 石川県地場産業振興センター 本館1階 第7研修室

3 出席委員 委員名簿参照

4 議事内容

(1) 説明事項

事務局から会議資料に基づいて説明(他県社会福祉会館の調査・分析事例)

(2) 意見交換

【森山委員長】

他県社会福祉会館の調査・分析事例をもとに、在り方検討委員会報告書で取りまとめた新会館に求められる5つの機能に沿って、ご意見をいただきたい。

【委員からのご意見】

<①福祉への理解醸成>

- ・新会館は、一般の人が入りやすいように、敷地のそとから建物のなかに何があるのかわかるような工夫や、敷地に余裕があれば、子どもたちが遊べるような遊具を備えた空間や近隣の方がくつろげるような公園などを設けるなどの工夫もあるとよいのでは
- ・新会館は、建物ありきの発想ではなく、まず、おもとに人に人と人とのつながりは大事だという考え方をそえるとよいのではないか。建物としての新会館は何を目指すかとした場合、例えば、五感を癒すような建物。新会館に行った人が癒される、人が自然にそこに行きたいと思えること基本に置いて、それを実現するためにいろんな機能をどう置くのかというように考えていくとよいのでは
- ・県民の「福祉への理解醸成」機能の主たるターゲットは、本県の福祉の人材確保につながるためにも、若年層と考えてはどうか。新会館では小学生や中学生が、児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉について広く知ってもらう機会を提供することができればよいのではないか
- ・ターゲットを若年層向けとして考えた場合、子どもたちの反応がよいのはスポーツ。特にパラスポーツは、最近メディアでもよく取り上げられている。子どもたちに福祉に関心を持ってもらうきっかけとして、ボッチャなど室内競技が定期的で開催される

ような場所を作るというのも一つの方法ではないか。競技を見る場面が増えてくると、子どもたちは集まってくるのではないか

- ・若年層をターゲットにするのは大賛成。小中学生だけではなく、もっと低年齢児も想定するとよいのでは。福祉的支援に加え医療的支援も必要な方もいることから、子どもたちに知ってもらう範囲は、もっと幅広に考えるとよいのではないか
- ・次世代を支える子どもたちに福祉を広く知ってもらうという方向性はたいへんよい。新会館には授乳室やおむつ交換できる場所など、子どもと親とが普段から立ち寄りやすい工夫があるとよいのでは
- ・若年層に福祉を知ってもらうのは、パネル展示などを見せるだけではなく、新会館で、例えば、障害のある人が生き生きと働く姿、あるいは、障害のある方や高齢の方がデイサービスなど利用している姿、それ支援する福祉職員の姿を見ることが経験値になるのではないか
- ・子どもたちが福祉と関わる機会を作るため、福祉を学ぶ場として社会福祉会館を活用できるとよいのでは
- ・小中学生をターゲットとした場合、新会館を利用した福祉教育等の実施が重要であり、教育委員会との連携が求められる
- ・研修室の横に調理室がある建物事例がある。非常食を作る研修があって、子どもに人気があると聞いた。ニーズを調べてみたらよいのではないか

<②相談対応>

- ・新会館が相談しやすい場所となるためには、プライバシー配慮、動線確保、相談室の個室化、相談室は明るく圧迫感のない部屋にするなどの工夫が大事
- ・相談室は使用していないときは応接室としても使用するなど、フレキシブルな利用ができるよいのでは
- ・車いすの方や子ども連れの方などにも対応できるよう、バリアフリーや相談室の広さについても工夫があるとよいのでは
- ・相談していること自体を知られたくない相談者に配慮できる動線や部屋の配置、また、相談者によっては音漏れを懸念する方もいるので不安にさせない工夫があるとよい。一方で、相談者によっては相談対応している職員が身の危険を感じることもあるので、他の職員が相談室の様子を知ることができる工夫もあるとよいのでは

- ・ちょっとした相談はホールをパーティションで仕切って対応しているという建物事例もある。相談はプライバシーを大事にするものからちょっとしたものまで様々であることから、新会館では柔軟な対応ができるつくりとするとよいのでは

<③人材育成>

- ・福祉の人材確保は、例えば小学校の高学年や中学生の2年生といった早い段階から、若年層が福祉の仕事についてしっかり理解できる研修が必要だと思う。福祉に関わる人をどう育てていくのか、新会館で人材育成にどう取り組むのについて、しっかり考えていただきたい
- ・本県の研修センターはたいへん素晴らしい。若い職員から管理者まで体系化した研修の実施を継続し、また、充実してほしい。時代に応じたオンライン研修の実施では、一番立派な機材を入れてほしい
- ・新会館の研修室や会議室は、空いているときは貸会議室として収入をあげるとよいのでは
- ・オンライン研修が当たり前になってきており、コンパクトなスペースさえあればいいという見方がある一方で、グループワークを行う集合型の大規模研修もあり、たくさんグループを作ることがあることから、やはり大きい部屋を設けて、区切って利用できるように、可動間仕切りなどがあるとよい
- ・新会館では、会館で実施される以外のものを含めて様々な研修情報を検索できる工夫や、また、検索した研修の組み合わせの提案やアドバイスなどできる工夫ができるとよいのでは
- ・県下での福祉人材の募集・育成については、ILACとの連携が重要
- ・研修のための専用室を設けるのではなく、研修にも会議にも活用するなど、フレキシブルな利用ができるとよいのでは。また、フレキシブルな利用ができるよう部屋の表示方法の工夫があるとよいのではないか
- ・研修室にお茶・お菓子などを備えられるキッチンカウンターが置かれていた他の建物事例がある。新会館の研修室にも研修参加者が情報交換や交流ができる場を設けたらよいのでは
- ・オンライン研修が当たり前の時代になっており、研修資料の配布も紙ではなくQRコードを活用して電子上で配布ということも増えてきた。新会館では全館Wi-Fi整備を考えていく必要があるのでは

<④活動促進>

- ・ 県社協の組織や活動について、県からどのような形であってほしいのかの意見や後押しが欲しい。県社協が行っている業務の全てが新会館に入っておくべき
- ・ 新会館の執務スペースを考える際に、参考事例を他県の社会福祉会館に絞るのではなく、例えば地域密着型コミュニティセンターなど範囲を広げてみるといろんな事例がある。新会館で働く人が、ここで働きたいと思えるしつらえを考えることを大切したらよいのでは
- ・ 様々な福祉団体がワンフロアで一緒にやっていくことは難しい側面があるのでは。例えば団体ごとに部屋がある場合は、自室に鍵をかけるとその団体は休めるが、複数の団体が大部屋でひとつだと自分の団体だけ休む訳にはいかない。フリーアドレスの実施など、これからいろんな意味で仕事の仕方は変わってくると思うが、それに併せていま技術がどんどん進んでいることを踏まえると、新会館ではいろんな対応はできると思う。個々の団体が希望することや内容を踏まえて建物を具体化していくとよい

<⑤社会参加促進>

- ・ 飲食店等の運営は、ビジネスとして成り立たせることが必要。とりあえず福祉の飲食があればよいという考え方では成り立たない
- ・ 採算が取れるのは基本。障害を持つ方の就労は、飲食や販売だけではなく、館内の掃除業務を請け負うなどの仕事があるのではないか
- ・ 公の建物での飲食店などは、民間の方がビジネスとして参入してきた場合、成功事例がある。新会館での場合を考えたときに、事業者には障害のある方を雇用するという点を踏まえ参入してもらいたいと思うが、ビジネスとして成り立つかどうかを十分に考えないとうまくいかないと思う。新会館の建設予定地は立地的には非常に良いので、思い切った集客をするための仕掛けづくりも場合によっては考えてみてもよいのではないか

<災害対応>

- ・ 備蓄倉庫は、平時はデッドスペースになるので設置場所をよく検討する必要がある。災害時を考えると、いざというときに使用しやすい1階フロアに置く、なおかつ水に浸からない場所がよいことを考慮して、最善の場所に設置すればよい